

行田税務署管内納税貯蓄組合連合会長賞 銅賞

当たり前

加須市立昭和中学校

三年 町田 あたえ

ある日の夜、夕食を食べながらいつものように家族でテレビを見ていた。そのとき、世界の貧しい人々に密着している、海外のドキュメンタリー番組を目にした。

番組では、救急車を呼ぶだけで数万円もかかることがあり、経済的な理由で医療を受けられない人が多いというアメリカの現実が紹介されていた。また、ある発展途上国では、小学校に通うのにも学費がかかり、親が教育費を払えないために、子どもが学校に行けないこともあるという。

私はそれを見て、とても衝撃を受けた。なぜなら、日本では学校に行くのも、病院にかかるのも、ほとんど費用を気にしていないからだ。教科書は無料で配られ、病院で診察を受けても、高額な請求が来ることはまずない。これまで当たり前だと思っていたことが、実は他の国では当たり前だと思っていたことが、実は他の国では当たり前ではないと知り、自分がどれだけ恵まれた環境にいるのかを強く実感した。気になって調べてみると、日本では教育や医療を支えるために、国民が納めた税金が使われていることが分かった。学校の施設や教科書、病院の設備や医療制度など、安心して生活できる仕組みの多くが税金

によって成り立っている。税金の使い道を知るうちに、自分自身もその恩恵を受けていることがよく分かった。頭のどこかでは、このように税金が人々の暮らしのために使われている、と分かってはいたが、今回改めてその大切さを感じた。税金はただ国に取られるものではなく、私たちの生活を支えてくれるものだった。

ただし、税金の使い方には課題もある。ニュースでは不適切な支出が取り上げられることもあり、全てが完璧というわけではない。その問題はきっちり解決してほしい。しかし、それでも税金は、社会全体を支える大切な土台であり、なくてはならないものだと感じている。

将来、私が大人になって働くようになれば、より多くの税金を納めるだろう。今はまだ、消費税ぐらいしか払ったことはない。だから、これまで税金によって支えてもらった分、今度は自分が社会を支える一人として役割を果たしたいと思う。税金は、一方的にお金を取られるものではなく、社会で支え合って生きていくための仕組みなのだ。

私は今年で十五歳になる。成人まであと三年だ。大人へとだんだん近づいていく中で、これからは今までよりさらに税について関心を高めていきたい。そして、税を通して自分で今の社会を理解し、見渡せるようにしたい。税とは、社会全体を支えるものなのだから、おのずと社会の課題が見えてくるはずだ。私はまだそれができないが、成人になるまでに自分自身が成長し、できるようにしていきたい。